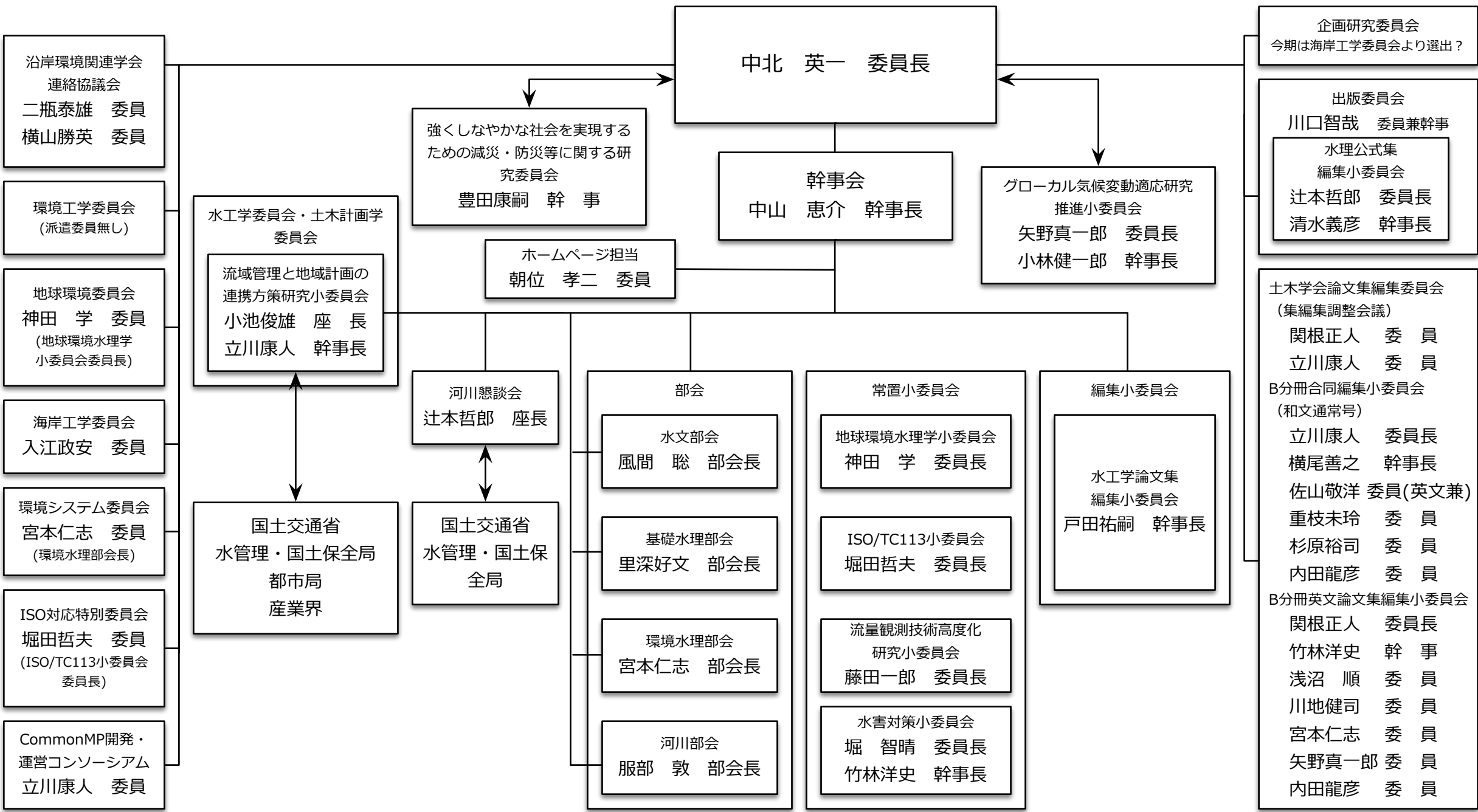
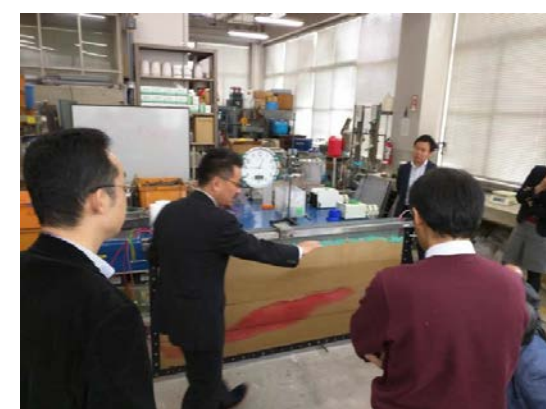


2015-2016 水工学委員会



水文部会報告

- 第16回地下環境水文学に関する研究(in富山) 11月21日～22日(中川啓先生とりまとめ)
 - 大同大学 白水キャンパス(鷲見先生幹事)
4号館1階 4102教室
 - 参加者18名
 - 21日22日 研究発表会
 - 22日午後 実験室における油汚染地盤浄化実験の見学(大同大学棚橋教授)



水文部会報告

- 第二回水文部会
 - 3月16日(水)12:15~13:15 東北工業大学932室
水工学講演会期間中
- 水文部会研究集会
 - 10月14日~16日
 - 秋田, 見学: 雄物川流域, 物部長穂記念館, 強首輪中他
- 水シンポジウム
 - 8月25日~26日
 - 山口市 水文部会が企画
- 国土交通省のレーダ雨量計設置50周年事業について
- 次回 全国大会(仙台)
- 新しいメーリングリスト

cvlhydro@group.kobe-u.ac.jp

基礎水理部会からの報告

報告事項

1. 第2回基礎水理部会と見学会

・第2回基礎水理部会

日時：平成27年10月25日（日）17:00～18:30 網走湖荘

出席者：里深，井上，田中，吉田，4名

議題：基礎水理シンポジウム2015の確認，2016年度水シンポ@福井の報告，など

・見学会

日程：平成27年10月26日（月），27日（火）

場所：北海道網走川，摩周湖，釧路川，釧路湿原など

出席者：里深，井上，田中，吉田，4名

2. 基礎水理シンポジウム2015（第9回）

日時：12月7日（月）10:00～17:00

場所：土木学会講堂

講演テーマ：流砂研究の課題，現状，突破口

講演者： ICHARM・江頭先生，早稲田大学・関根先生，京都大学・原田先生，
筑波大学・宮本先生

参加総数：106名

3. 河川砂防技術基準をベースとした意見交換会

日程：平成28年3月15日（火）15:00～17:00

場所：東北工業大学八木山キャンパス 932号室

環境水理部会報告

部会長 宮本(芝浦工業大学)

研究集会(5/19-20) 香川開催(予定)

WG:閉鎖性水域研究WG(矢島):湖沼生態系モデル

樹林化WG(宮本):とりまとめWS. 河川部会とのJoint.

動的総合土砂管理に関するWG(竹林)

温暖化適応WG(矢野):<新規WG>

環境水理教科書英文化WG(矢野):<新規WG>

環境水理学のテキスト:おかげさまで売り上げ順調!

H28研究集会(予定)

幹事 石塚(香川大)

- 日時: 2016年5月19-20日
- 場所: 香川(会場は調整中)
- 行程:
 - 19日(木) 研究集会
 - 発表会(一般, 温暖化適応セッション)
 - 特別講義(多田邦尚先生), ナイトセッション
 - 20日(金) 見学会
 - 満濃池, 香川用水記念館, 土器川巨石実験など
- 詳細確定後、部会HP掲載予定。皆さまの参加歓迎！

閉鎖性水域WG

ワーキンググループ名：閉鎖性水WG

幹事：鳥取大学 矢島

ミッション：国内全体の閉鎖性水域に関する研究分野の活性化とレベルアップを図るとともに、国際的にも通用する湖沼生態系モデルの開発を行う。

メンバー：現在関連研究を行っている方だけでなく、これから閉鎖性水域の研究を行いたい人にも入っていただく(現時点での参加者は、部会メンバー6名+部会外メンバー3名の合計9名)。

今年度活動内容：

首都大学東京の新谷先生＋鳥取大学矢島が主となり、新谷先生が開発したオブジェクト指向型環境流体モデルFantom3Dに生態系モデルを組み込んだモデルの検証作業中である。

来年度活動内容：

Fantom3D＋生態系モデルのテストユーザの募集

研究集会の開催

応用生態工学会とのジョイントシンポジウム(部会での審議のお願い)

適応WG

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG

[適応WG]の設置: WG主査 矢野真一郎(九州大学)

【設置目的】

流域圏の水環境に関連する適応策の検討や、適応策(緩和策も含む)を適用した場合の水環境への影響評価などに関して、情報共有、課題抽出、研究プロジェクトの立ち上げなどを目的として活動する。

【メンバー】

宮本(芝工大)・矢島(鳥取大)・田代(名大)・赤松(山口大)・梅田(東北大)・工藤(いであ)・櫻井(土研)・鈴木(八千代)・鶴田(土研)・中山(神戸大)・矢野(九大)・湯浅(パシコン)・井芹(西技); [部会外メンバー] 上原(パシコン)・對馬(土研)(計15名)

【第1回WG】

2016年1月29日(金) 15:00~18:00 土木学会F会議室 参加者:10名

- ・WGの活動方針を決定。水環境に関連した適応にターゲットの中心を置く。
- ・上原氏、宮本先生に適応関連の先行研究を紹介いただいた。

【今後の予定】

5月の部会研究集会時に第2回WGを開催予定。水環境に関する適応策研究の情報共有を進め、適応策のメニュー、WGのアウトプットのイメージなどを協議する。年2~3回実施予定。また、水工学委員会に設置された適応WGや他部会との協働を図る。

平成 28 年 3 月 14 日

水工学委員会資料

河川部会の活動報告

【報告事項】河川シンポの運営について

◆スケジュール（灰色まで実施済み）

2015-2016(第 22 卷)	
会告掲載	12 月上旬
要旨投稿締切	1/26(火)17 時
要旨査読締切	2/12(金)17 時
部会(第二回)	2/19(金)
本論文投稿締切	4/4(月)17 時
本論文査読締切	4/18(月)正午
部会(第三回)	4/21(木)
シンポジウム開催	6/2(木)～3(金)

◆要旨投稿状況

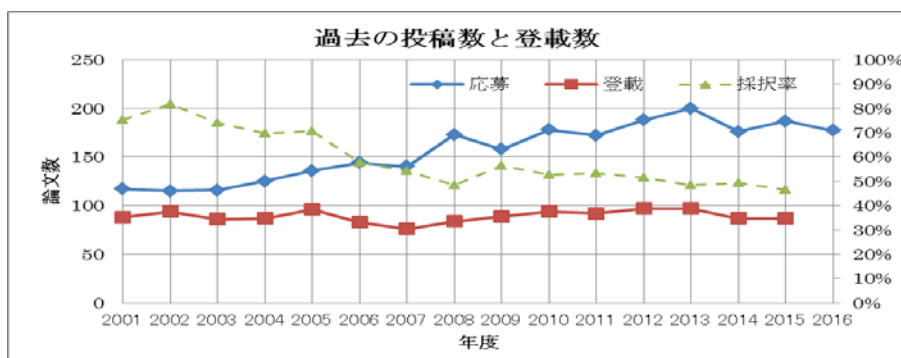
177 の要旨投稿があった（近年 5 年と同程度）。

課題別では、一般課題 132，特定課題 1：20 編，特定課題 2：25 編。

(1) 特定課題 1：「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害」

(2) 特定課題 2：「河道・洪水流の観測・モニタリング技術の進展と今後の展開」

ジャンル別では、論文 119，報告 57 編，総説 1 編。



投稿者に査読結果の通知を済ませたところ

◆今後のスケジュールなど

- ・本論文査読：登載可能・不可能の判断は、三名の査読結果に基づいて委員会で行われる。
- ・「河川技術論文賞」の創設

今回の第 22 巻河川技術論文集より、優れた成果を上げた論文・報告・総説の著者を表彰し、河川技術の進展を促すことを目的とした「河川技術論文賞」を創設しました。

- ・今回から、本論文査読は河川技術論文賞の候補選定を兼ねる（推薦の有無を記入）
→候補から受賞者を選定する査読においては、その内容に応じて水工学委員会委員の方々にも査読をお願いする次第です。ご協力お願いいたします。

以上

水工学委員会小委員会 ISO/TC113 国内検討委員会報告

小委員長 堀田 哲夫

1) TC113 開水路の流量観測の概要

ISO/TC113 は、「開水路における水位、流速、流量及び土砂輸送、降水、蒸発散、そして地下水の利用と挙動に関する水文観測の方法、手法、機器そして装置の標準化」を対象とする専門技術部会であり、5つのSC（小委員会）を持ち現時点で約64の規格と15の案件を取り扱っている。日本は3つのSCにPメンバー（議決権有）として参加している。（Oメンバー：オブザーバー）

①ISO/TC113（流量観測）	: 幹事国（インド）,	参加形態（Pメンバー）水工学委堀田
②SC1（面積流速法）	: 幹事国（インド）,	参加形態（Pメンバー）土研岩見
②SC2（観測装置）	: 幹事国（イギリス）,	参加形態（Pメンバー）土研石神
③SC5（測定機器とデータ管理）	: 幹事国（アメリカ）,	参加形態（Pメンバー）Frics 中尾
④SC6（浮遊砂、掃流砂）	: 幹事国（インド）,	参加形態（Oメンバー）首都大横山
⑤SC8（地下水）	: 幹事国（アメリカ）,	参加形態（Oメンバー）調整中

2) ISO/TC113 東京総会開催状況

日本は第21回総会（2001.5）以来毎回参加しており、つくばで第23回総会（2004.5）を開催して以来の2回目の開催となった。開催にあたっては、小委員会メンバーに加え国土交通省河川情報企画室・電気通信室からも参加を頂き、実行委員会を設置して準備に当たり、次のような形で国際会議を開催した。

- ① 会場：土木学会会議室（前回；2004年5月つくばセンター）
- ② ホスト；実行委員会、事務局；土木学会
- ③ 会議形態：ペーパーレス会議（会場にLANを構築しインターネット接続、ローカルサーバー設置とUSBメモリーでの資料配布、一社）建設電気協会の支援）
- ④ 予算確保方策：公社）河川財団の河川整備基金助成事業の助成金、一社）関東地域づくり協会の公益補助事業の助成金、その他公益社団法人からの寄付金、土木学会予算等
- ⑤ スケジュール：次表

日程	会合	予定時間	備考
2015/5/24(日)	Secretary's & Chair's meeting	14:30~17:30	議長・事務局運営会合
2015/5/25(月)	Opening Meeting-1 st Plenary Session	09:00~11:00	開会式、記念撮影 土木研究所理事長主催レセプション
	Meeting of ISO/ TC 113/SC1	11:30~17:30	
2015/5/26(火)	Meeting of WGs	8:30~10:30	
	Meeting of ISO/ TC 113/SC 6	13:30~17:30	
2015/5/27(水)	Meeting of ISO/ TC 113/SC 8	8:30~10:30	午後現地視察、鶴見川遊水地等（関東地整協力）
	Meeting of WGs		
	TECHNICAL TRIP (Tsurumi River)	13:30~17:30	
2015/5/28(木)	Meeting of ISO/ TC 113/SC 5& SC1WG	8:30~12:30	
	Meeting of ISO/ TC 113/SC 2	13:30~17:30	
2015/5/29(金)	Plenary meeting of ISO/ TC 113	8:30~12:30	閉会式、次回は2016年秋於インド
		13:30~17:30	

⑥ 参加者：中国（6）、インド（6）、日本（26）、オランダ（1）、イギリス（6）、アメリカ（4）の6カ国からの49名と1機関（WMO 1名、国籍はイタリア）、合計50名

3) 日本関連規格等の状況

本小委員会は日常的な情報交換などの活動を通して水文観測にかかわる技術の国際的な動向を探り、他方でわが国の規格を国際規格に反映させるという目的で参加しており、関連する規格等への主な取り組み状況は次のとおりである。

- ① かねてから日本が提案していたISO/TS 24155（水文データ伝送システム—システム要求事項）のIS（規格）への格上げに対する最終原稿が承認され、今年1月に国際規格として発行された。
- ② わが国のJIS規格を入れて制定されていたISO 1438-1（薄刃堰を用いた開水路の流量測定）が、途中で越流水深1m以上の場合を適用外とするように改定されていたが、日本での研究成果を踏まえ1m以上の場合も含めるよう再改定することで合意された。（コンビナー：日本石堂）
- ③ ISO/TR 24577（非接触型流量測定）プロジェクトに、日本の萬矢がコンビナーとして参加し、日本案を基に国際規格化を図る。
- ④ ISO/TR 24578（超音波ドップラー流速計の適用ガイド）を正式規格にすべく、日本の萬矢が草案作成とコンビナーを務めることを決議。

平成 28 年度合同流量観測会開催のご案内

土木学会水工学委員会
流量観測技術高度化研究小委員会
委員長 藤田一郎

日頃より、当小委員会の行事に参加頂き有難うございます。

さて、平成 28 年度合同流量観測会を下記の日程にて開催致します。本観測会は、日頃より流量観測に従事されている方々に各自の技術を持ち寄って頂き、同一時間・同一場所において一斉に観測を行い、比較等出来るようにすることを目的としています。28 年度からは観測技術の ISO 化に向けた取り組みと関連させて行事を開催していく予定ですので、皆様のご参加とご協力を賜れば幸いです。

記

日時：2016 年 4 月 26 日（火）～29 日（金・祝日）午前

場所：新潟県 信濃川 旭橋（最寄駅：JR 上越線 小千谷駅）

日程

4 月 26 日（火）：観測準備（評定点設置等）

4 月 27 日（水）：予備観測

4 月 28 日（木）：本観測（一日）&懇親会（ISO 決起集会含む）

4 月 29 日（金）：本観測（午前のみ）

誠に勝手ながら、諸般の事情により上記スケジュールしか計画できませんでした。大変恐縮ですが、ご了承頂けますようお願い致します。

28 日（木）は国土交通省本省および各地方整備局の水文担当者の方々が見学にいらっしゃる予定です。皆様が観測されている間に質問されると思いますので、対応して頂けますと幸いです。

28 日（木）に ISO 決起集会を開催致します。懇親会前の 30 分程度を利用して ISO への意識を共有するためのものです。日中の観測会には出来ない場合でも、この決起集会には参加して頂けると幸いです。

その他の連絡事項

- ・スケジュールには上記の通りだが、基本的には「好きな時に来て、好きな時に帰る」。
- ・宿、交通手段は各自で準備をお願い致します。宿は小千谷駅周辺にほとんどないため、長岡駅周辺をおすすめします。懇親会の会場も長岡駅周辺を検討しております。

・安全対策は各自で準備をお願い致します。道路管理者、警察等への許可申請等は事務局が行います。

・トレーサの投入は行わない。昨年同様、画像解析を行う方々へのお願いです。利水者等との調整で事務所の方々に手間をとらせてしまうことや、トレーサが溶けないことが懸念されるため、ご理解とご協力を頂けると幸いです。

「国内の観測技術を ISO へ反映するための方策を検討する会」の設立について

小委員会として、流量観測技術の ISO (International Organization for Standardization) 化に関連させながら来年度の以降の合同観測会や勉強会を進めていきたいと考えています。それに伴い、小委員会の中に「国内の観測技術を ISO へ反映するための方策を検討する会」を設立し、以下の行事を開催したいと考えています。

2016 年 4 月	決起集会。合同流量観測@信濃川旭橋（三泊四日）。懇親会の前の 30 分程を利用して ISO での狙いを共有する。その時に今後の勉強会の時期を決定する。
2016 年 6 月 or7 月	流量観測技術勉強会&ISO 勉強会（一泊二日）
2016 年 10 月 or11 月	流量観測技術勉強会&ISO 勉強会（一泊二日）
2017 年 3 月	ISO 勉強会（水工学講演会期間中かその前後）

参加の連絡について

現時点で参加希望の有無、参加人数、参加日程、観測項目について決まっていたら、小関まで教えて頂けると幸いです。

また、本案内を関係者へ転送して頂いても構いません。

以上

質問・疑問がありましたら小関までご連絡下さい。

小関博司（専門研究員）

〒305-8516 茨城県つくば市南原 1-6

国立研究開発法人 土木研究所

水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM:アイチャーム）

TEL 029-879-6779

FAX 029-879-6709

E-mail : h-koseki55@pwri.go.jp

水害対策小委員会 2015年度の活動

- 2015年3月： 2014年度第二回小委員会
河川災害に関するシンポジウム（参加者：241名） ←過去
最高
- 2015年6月： 2014年度に実施した3件の水害調査の最終報告書完成
2015年度第1回水害対策小委員会
- 2015年9月： 関東・東北豪雨災害に対して水工学委員会水害調査団
（関東グループ，東北グループ）の結成・活動のサポート
- 2015年10月： 関東・東北豪雨災害（東北グループ）による被害報告会
実施サポート（参加人数：70人）
消防連携WGの結成（総務省消防庁，東京消防庁，レス
キュージャパンなど）



河川災害に関するシンポジウム



東北グループ被害報告会

2015年12月： 関東・東北豪雨災害（関東グループ）による調査報告会
実施サポート（参加人数：200人）



関東グループによる調査報告会

2016年3月： 2015年度第二回小委員会
水害調査団員候補者名簿の作成
河川災害に関するシンポジウムの実施

- ・ 調査方法の統一化WG

2016年度の活動予定

- ・ 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- ・ 調査方法の統一化WG
- ・ 消防連携WG（ソフトレスキューマニュアルの検討など）

2016年6月： 2016年度第一回小委員会開催

2017年3月： 河川災害に関するシンポジウムの実施
2016年度第二回小委員会開催

土木学会英文論文集編集委員会からの報告 (2016年3月 水工学委員会)

- 土木学会論文集B部門通常号ならびに特集号(水工学論文集)に掲載された論文の中から、例年の通りの基準に従って以下のように推薦することにしました。
- 土木学会論文集通常号B1, B2, B3に2014年掲載の論文から9編(17)を推薦。
- 2014年度の水工学論文集に掲載された論文から25編(47)を推薦。
- 選考の遅れにより事務局から著者への連絡は現在進行中です。原稿の提出期限を過ぎても有効ですので是非ご投稿ください。

土木学会英文論文集編集委員会からの報告

(2016年3月 水工学委員会)

- 土木学会英文論文集編集委員会では、部門の横断企画として「[震災復興](#)」に関わる論文を募集しています。B部門からは未投稿の状況にあります。論文の投稿に加えて、この件の周知をお願い致します。もし、招待論文としてご執筆いただくのがよいと思われる方がいらっしゃいましたらご推薦いただければ幸いです。
- その他

関根 (早稲田大学)

平成27年度第2回海岸工学委員会報告

11月11日(水)18:00～20:00タイム24ビル(海岸工学講演会会場)

■ 委員交代・議事録確認

■ 第62回海岸工学講演会および 海岸工学論文集第62巻発刊状況

応募論文数381 内292編採択
製本が廃止され, DVDでの発刊

論文集通常号への投稿促進
講演会のセッションは和英混在を継続
企画セッション「海岸工学分野における気
候変動への対応」

■ 次年度第63回海岸工学講演会

2016年11月16日(水)～18日(金)
大阪大学中之島センター(北区中之島)
企画セッション: 東日本大震災と環境

■ 29年度第64回海岸工学講演会

2017年10月25日(水)～27日(金)
TKP札幌駅カンファレンスセンター

■ Coastal Engineering Journal

Impact Factorが2.25
3冊の特集号が進行中

■ 海岸工学講演会におけるマスコミ 対応について

第1セッション, 第2会場の講演でテ
レビ取材がなされた. 今後, 他学会
の例を参考にし, 簡単な指針を整備

■ 今後の委員会活動について

地域の課題に取り組む研究活動を対
象に, 海岸工学委員会の枠組みの中
での活動を希望する地域グループの
支援

■ 夏季研修会(2015,2016)

■ その他

次回 幹事会(4月)

委員会(6月)

「第21回水シンポジウム2016 in やまぐち」
プログラム

■ 8月25日(木) 第1日目 シンポジウム

会場：山口県総合保健会館多目的ホール(約500人を想定)

【午前の部：メイン会場】

9：00 開 場

9：30 開 会 (30分)

シンポ趣旨説明 (2分) 司会

開会挨拶 (8分) 実行委員会委員長

実行委員紹介 (2分) 司会より紹介、壇上一礼

来賓挨拶 (各5分) 中国地方整備局長、山口県知事、山口市長

プログラム案内 (3分) 司会

10：00 日本水フォーラム報告 (50分) 竹村公太郎氏

10：50 基調講演 (60分)

11：50 昼 休 憩

【午後の部：分科会等】

12：50

テーマ別分科会 (130分)

第1分科会 担当：土木学会

会場：多目的ホール

第2分科会 担当：行政・民間

会場：第1研修室

15：00 休憩

15：10 子どもたち等による発表 (全体会議打合せ) (40分)

15：50 全体会議 (60分)

各分科会まとめとメッセージ発信

16：50 次回開催県挨拶 (10分)

17：00 閉 会

【パネル展示】 (会場：ホールロビー等利用)

■ 8月26日(金) 第2日目 現地見学会 (案：一の坂川、萩、秋芳洞等)

定員 約40人を想定

2016年度（第52回）水工学に関する夏期研修会について

1. 開催日：2016年8月22日(月)，23日(火)の2日間(予約済み)
2. 会場：秋田大学 一般教育2号館(図青丸) (秋田市手形学園町1-1)
 - ・103講義室(220 m²，210席，1階)
 - ・203講義室(220 m²，210席，2階)
3. テーマ：
 - ・河川・水文コース：地球環境変化時代の水防災(案)
 - ・海岸・港湾コース：東日本大震災後の津波防災(案)
4. アクセスマップURL：
<http://www.akita-u.ac.jp/honbu/access/index.html>
5. その他：
 - ・講師控室兼事務局室を確保
 - ・一般教育1号館(図緑丸)
 - ・208会議室(124 m²，移動席，2階)



第52回水工学に関する夏季研修会(案)

■河川・水文コース

テーマ：地球環境変化時代の水防災

内 容：水防災(減災・復興含む)を目指して絶え間なくいろいろな取り組みが行われている。近年の取り組みの方向性を見極め、水防災の行方を2015年仙台防災枠組(防災・減災は政策の優先課題、投資、強く良い社会の構築である)を踏まえながら概観する。

○8月22日(月)

1. 小池俊雄(東京大学):「仙台防災枠組2015-2030」の策定に向けた科学・技術分野の取り組みとその後の展開
2. 風間 聡(東北大学):積雪と融雪洪水のモデル化(仮)
3. 畠山慎一(国 交 省):水防災意識社会再構築に向けた取り組みについて
4. 二瓶泰雄(東京理大):2015年関東・東北豪雨災害における鬼怒川の堤防被災状況の把握とそのメカニズムの検討(仮)

○8月23日(火)

5. 真野 明(東北大学):流出予測, 数時間先から数十年先まで
6. 竹林洋史(京都大学):土砂災害を発生させる現象の実態と解析
7. 泉 典洋(北海道大学):洪水と河道管理(仮)
8. 小森大輔(東北大学):防護施設と氾濫(仮)

(敬称略)

■海岸・港湾コース

テーマ：東日本大震災後の津波防災

内容：大震災後、津波の防災・減災（復興含む）を目指していろいろな取り組みが行われている。大震災後5年を節目に取り組みの方向性を見極め、津波の防災・減災の行方を、2015年仙台防災枠組（防災・減災は政策の優先課題、投資、強く良い社会の構築である）を踏まえながら概観する。

○8月22日（月）

1. 今村文彦（東北大学）：国際的な津波防災のあり方 —2015年仙台防災枠組を踏まえて—
2. 諏訪義雄（国総研）：津波防災地域づくりと津波浸水想定の設定
3. 越村俊一（東北大学）：広域災害の把握と評価（仮）
4. 影山智将（漁村総研）：震災を踏まえた漁港、漁村のあり方（仮）

○8月23日（火）

5. 有川太郎（中央大学）：防護施設とまちづくり
6. 松富英夫（秋田大学）：建築物に作用する津波荷重（仮）
7. 田中 仁（東北大学）：津波の河川遡上と防災
8. 首藤伸夫（東北大学）：高潮・津波対策の歩み（仮）

（敬称略）

平成28年度 第61回水工学講演会 開催計画

- 場所：九州大学
伊都キャンパス
(〒819-0395
福岡市西区元岡744)



<http://www.kyushu-u.ac.jp/>

- 日程：平成29年3月15日（水）～17日（金）
- 幹事：矢野真一郎（九大），杉原裕司（九大）

会場への交通

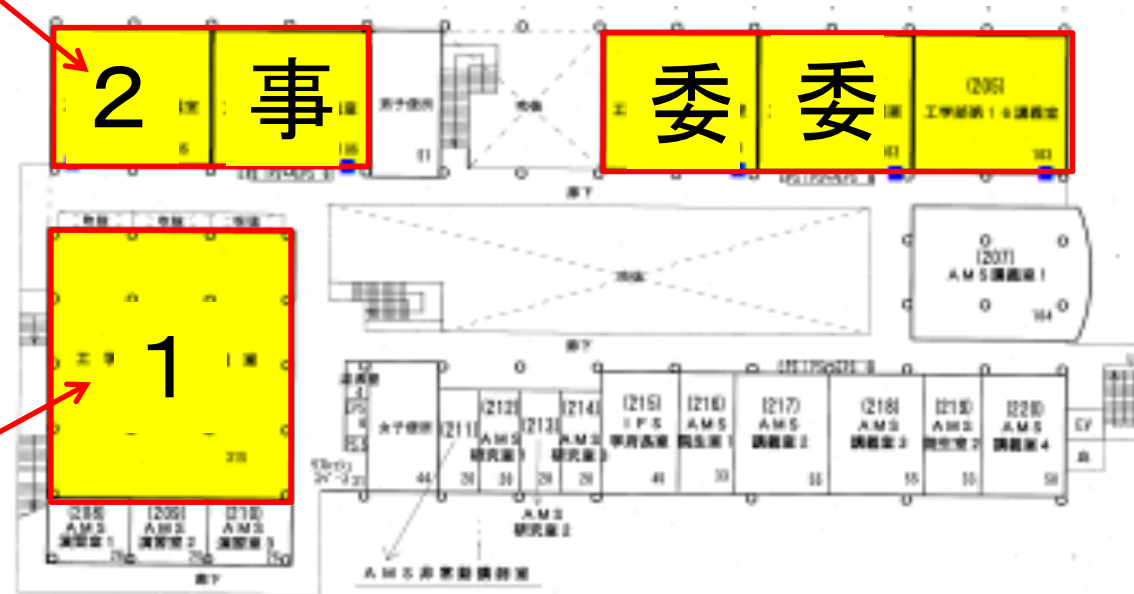
- **推奨:** 地下鉄空港線(JR筑肥線乗り入れ)にて, 福岡空港・博多駅・天神からJR九大学研都市駅まで30分程度. その後, バスで九大工学部まで15分程度.
- 博多駅, 天神から直通バスあり. (1時間程度かかります. 交通状況によっては1時間半以上)



会場

総合学習プラザ:

- 大講義室(222名): 第1会場(開会式, 特別講演, アゲール, 河川シンポ等の会場)として使用
- 工学部第5(88名): 第2会場
- 委員会用会場, 事務局用として2~3部屋*準備可能(50or88名)



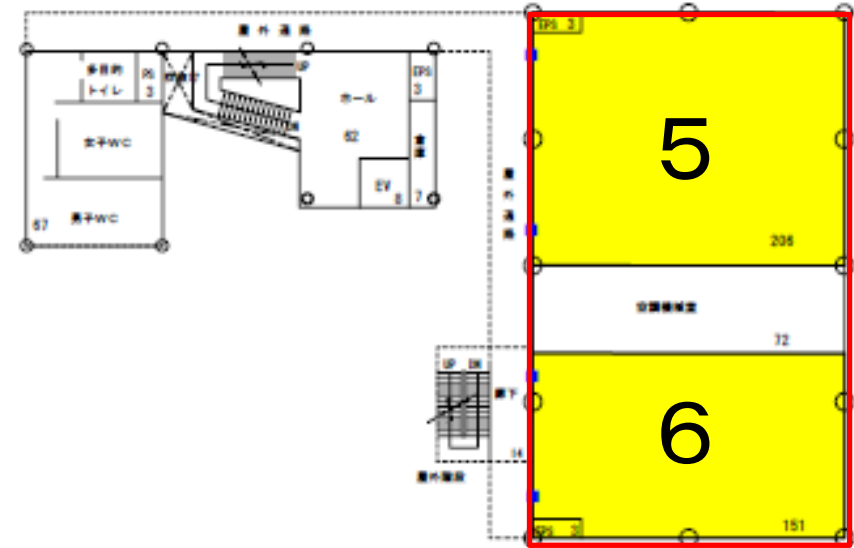
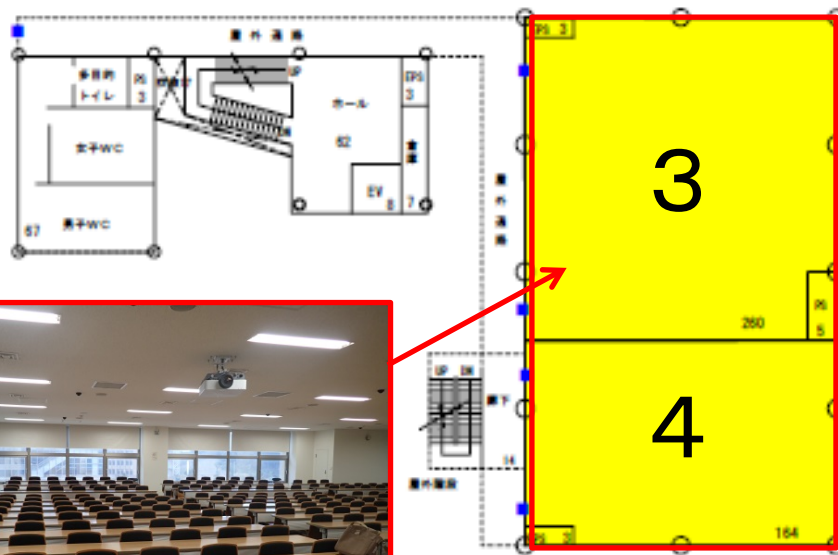
総合学習プラザ2階

会場



- 西講義棟：(第3～6会場)

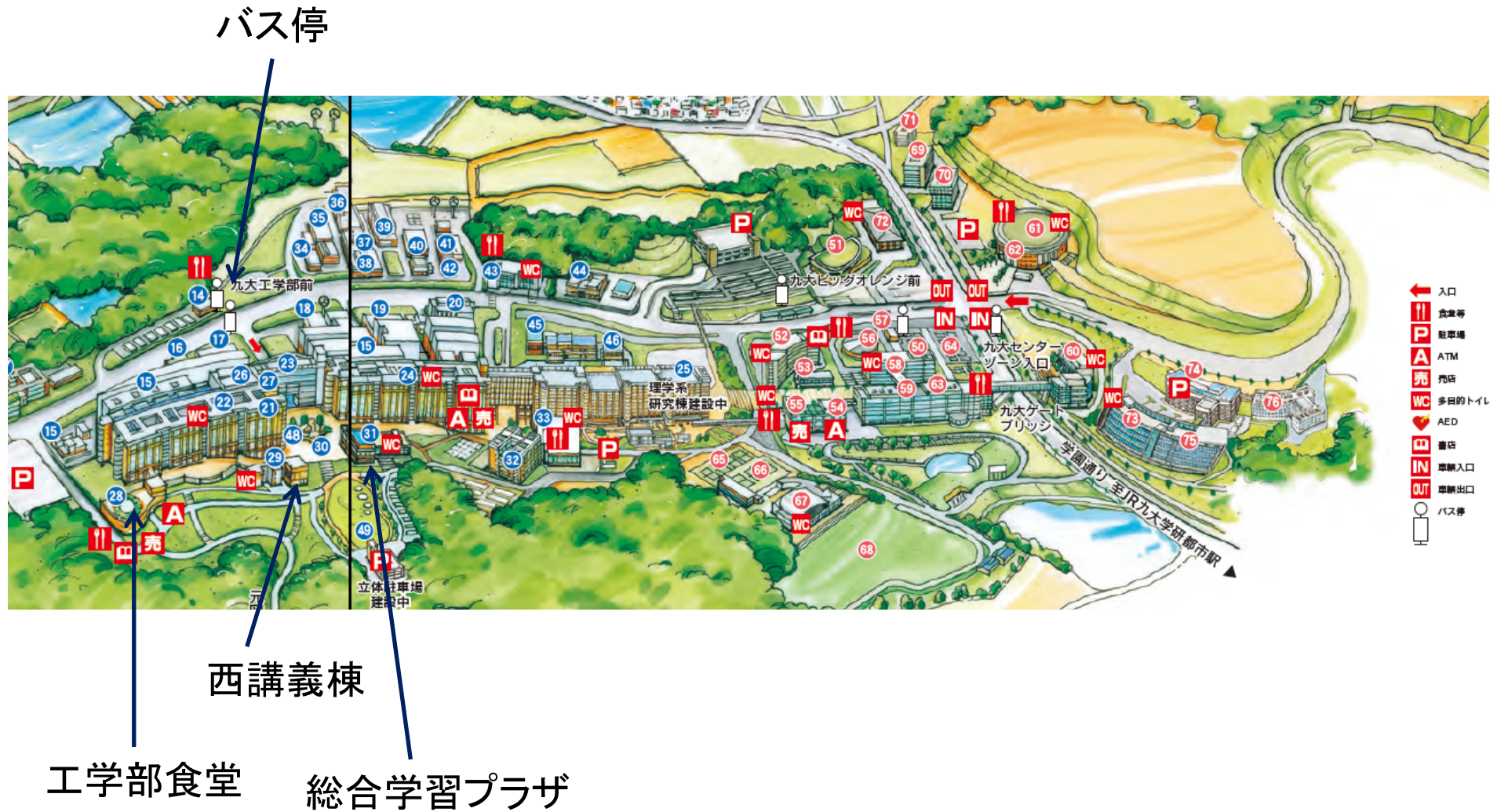
工学部第1講義室(254名), 第2(133名), 第3(184名), 第4(111名)



西講義棟2階

西講義棟3階

会場



その他

- 食堂など:

会場近辺に学食(2), カフェ(3), モスバーガー, 中華レストランあり. その他, ローソン, 生協など.

- 懇親会について:

工学部食堂1Fを貸し切りで行う予定.

※2次会は周辺駅前に居酒屋等がありますので, 期間中に案内を配布したいと思います.

- ホテルについて(重要!):

最近, 福岡ではホテルが非常に予約しにくい状況です. 必ず, 早めにおさえて下さい!

2015 年 11 月 20 日

土木学会水工学委員会
委員長 中北 英一 先生

ICWRER2016 実行委員会
委員長 寶 馨 
(京都大学防災研究所)

International Conference on Water Resources and Environment Research 2016
(第 7 回水資源と環境研究に関する国際会議)
後援名義使用のお願い

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、第 7 回水資源と環境研究に関する国際会議 (ICWRER2016) を平成 28 年 6 月 5 日~9 日の日程で京都にて開催する運びとなり、現在その準備を進めております。本国際会議は、1996 年に京都において第 1 回を開催し、その後、オーストラリア、カナダ、ドイツでの継続的な開催を経て、再び京都にて開催する運びとなったもので、Water Security in Geo, Eco and Socio-Systems をメインテーマとして、気候変動、極端現象、GIS とリモートセンシング、表流水と地下水の相互作用、実時間気象水文予測、水災害、土砂と生態システムの統合管理、環境水理・水文、リスクマネジメント、水と社会・経済、水と外交戦略など、多岐にわたるトピックについて、最新の研究成果の発表と討議が行われる予定です (会議の概要を別紙に添付いたします)。

つきましては、本国際会議のテーマと関係の深い領域をカバーしておられる貴委員会より、是非、ご後援の栄を賜りたく、後援名義の使用をお願い申し上げる次第です。なお、会議の運営に係る用務や経費一切につきましては、当国際会議実行委員会において処理し、貴学会にご迷惑をかけることはございません。よろしくお願い申し上げます。

謹白

The 7th International Conference on Water Resources and Environment Research (ICWRER2016)



7th ICWRER

June 5-9, 2016 Kyoto, Japan

Web: wrrc.dpri.kyoto-u.ac.jp/icwrrer2016

Email: icwrrer2016@wrrc.dpri.kyoto-u.ac.jp



Kyoto University



Disaster Prevention
Research Institute



Water Resources
Research Center

Scope of the Conference

It's our great pleasure to invite you to join us for the 7th International Conference on Water Resources and Environment Research (ICWRER) which will take place in Kyoto, Japan, from June 5-9, 2016.

The International Conference on Water Resources and Environment Research (ICWRER) is a series of conferences dealing with hydrology and water resources. ICWRER-2016 is the 7th one of the series, and back to Kyoto since 1996 (1st one). One of the objectives of ICWRER conferences is to bring together physical, biological, chemical, statistical and technical expertise in order to better understand natural systems related to water resources from all around the world.

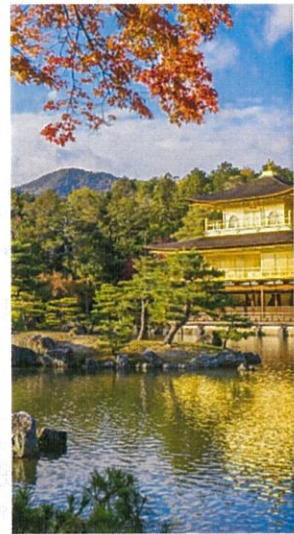
The main theme of ICWRER-2016 Symposium is 'Water Security in Geo, Eco and Socio-Systems'. Water security is defined as the capacity of a population to safeguard sustainable access to adequate quantities of acceptable quality water for sustaining livelihoods, human well-being, and socio-economic development, for ensuring protection against water-borne pollution and water-related disasters, and for preserving ecosystems in a climate of peace and political stability. (UN-Water, 2013)

The topics of ICWRER conferences are wide encompassing climate change, hydrometeorological extremes, GIS and remote sensing, surface water and ground water interaction, real-time hydrometeorological forecasting, water-related disasters, integrated sediment and ecosystem management, water and environment management, eco-hydraulics and eco-hydrology, risk analysis and management, Legislation systems for water management, water diplomacy, social and economic aspects in water resources, and sustainable water resources management.

This conference is organized aiming to enhance the understanding of the natural and social phenomena associated with water resources issues through the discussion about whole water resources management system as integrated elements of geosystems, social systems and ecosystems.

Themes and Topics

- Theme 1: Climate change
- Theme 2: Hydrometeorological extreme events
- Theme 3: GIS and remote sensing in hydrology and water resources
- Theme 4: Surface water and ground water interaction
- Theme 5: Real-time hydrometeorological forecasting
- Theme 6: Water-related disasters
- Theme 7: Environmental management enhancing ecosystem services
- Theme 8: Integrated sediment and ecosystem management
- Theme 9: Water and environment management in urban areas
- Theme 10: Eco-hydraulics/ eco-hydrology for water sustainability
- Theme 11: Risk analysis and management
- Theme 12: Legislation systems for water management
- Theme 13: Water diplomacy
- Theme 14: Social and economic aspects in water resources
- Theme 15: Sustainable water resources management



Conference Venue

Kyoto TERRSA

(Kyoto Citizen's Amenity Plaza)

Address
Kyoto TERRSA Shinmachi Kujo Minami-ku, Kyoto, Japan
Tel: +81-(0)75-692-3400 Fax: +81-(0)75-692-3402



Key Dates

2015

- Mar 31 Deadline of Special Session Proposal
- Aug 31 Call for Abstract
- Oct 31 Deadline of Abstract Submission
- Nov 30 Notification of Abstract Acceptance

2016

- Feb 29 Deadline of Extended Abstract Submission
- Mar 5 Deadline of Early Bird Registration & Technical Tour Registrations
- Jun 5-9 ICWRER Conference

Conference Schedule

- Jun 5 AM Arrival
PM Registration, welcome party
- Jun 6 AM Opening, Keynote
PM Session
- Jun 7 AM Keynote, Session
PM Session
- Jun 8 AM Keynote, Session
PM Session, Banquet
- Jun 9 AM Excursion
PM Excursion

Contact

Chair: Kaoru Takara
Secretary General: Tomoharu Hori

Disaster Prevention Research Institute, Gokasho, Uji, 6110011, Japan
Email: icwrrer2016@wrrc.dpri.kyoto-u.ac.jp



オーガナイザー：

氏名：中北英一

住所：京都大学防災研究所

〒611-0011 宇治市五ヶ庄

電話・FAX 番号：0774-38-4265

連絡担当者（実務代理）

氏名：中山恵介

住所：神戸大学工学研究科市民工学専攻

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1 の 1 1W-209

電話番号：078-803-6056

E-mail：nakayama@phoenix.kobe-u.ac.jp

セッションのタイトル：気候変動による影響への適応

Adaptation to the impact due to climate change

主 題：気候変動の影響は近年の豪雨災害の増加により顕著化しており防災対策の必要性は疑う余地がないばかりでなく、利水や環境といった側面でも気候変動への適応が急務となっている。本セッションは、気候変動や地球規模での環境変動をキーワードに、水圏における治水、利水、環境といった様々な視点から取り組む影響評価や適応研究について幅広く議論し、より横断的な研究の推進、連携の活性化、新たなテーマの発掘を目指す。

The impact of climate change has been revealed to cause damage not only to human society but also to ecological system. In the session, the influence of climate change on global change in environment is discussed extensively from a viewpoint of disaster prevention and sustainability of ecological system. The aims are to enhance multidisciplinary studies and to develop a new adaptation technique to the impact due to climate change.

予想される複数の応募部門：第 2 部門、第 4 部門、第 7 部門

●共通セッションテーマ

年次学術講演会では7部門に分かれたセッションを設けます。さらに、これらの7部門を越えた研究および複数の部門に関連する、研究のテーマを対象として、共通セッションを設けます。

今年度の共通セッションには、後掲の13件が仮テーマとして選定されました。共通セッションにおける講演を希望される方は、電子申込みの際に第一志望欄に、希望するセッション名を選択してください。

また、仮テーマが成立しない場合のために、第2、第3志望欄に一般セッションの部門・名称を必ず選択して下さい。

共通セッションの最終的なテーマ名および構成は、講演申込み完了後、全国大会委員会で決定されます。申込み状況により、共通セッションを構成するに不十分なテーマについては、従来どおり各部門における発表とします。

なお、共通セッションの講演概要もDVD版講演概要集に掲載されます。

CS1 土木教育一般

土木の分野においては、土木教育全般にかかわる課題に加えて、JABEE、継続教育、技術者倫理教育、技術者資格など人材育成関係の活動が活発に行われており、教育の重要性が広く認識されている。本セッションでは、これらの教育活動全般にかかわる課題を幅広く募集する。

※CS1 土木教育一般の他に研究関連セッションへの投稿もお考えの場合は、事務局全国大会係へお問い合わせください。

CS2 International Session (国際セッション)

国際セッションでは、留学生や日本人学生、若手技術者の英語による発表を広く募集いたします。英語による発表をお考えでしたら国際セッションへの投稿をお願いします。国際セッションは、「インターナショナルサマーシンポジウム」として実施します。

このほか「国際」という切り口による土木技術ならびに土木技術者に関する様々な視点、立場、考え方からの発表も歓迎します。

*発表言語：英語

CS3 複合構造物

複合構造は異なった材料の長所を組み合わせ、求められる性能に対して合理的で理想的な構造を実現しようとするものである。中でも、鋼とコンクリートの複合構造は活発に研究され実施例も多く一分野を形成するに至っている。一方、高分子系材料、新素材等、新たな異種材料による複合構造や補修補強工法も種々提案され、一般化されつつある。本セッションでは、これらの異なった材料を対等の視点で捉え、複合構造の適用可能領域を広げるのに役立つ発表と討議の場を提供する。

CS4 地下空間の多角的利用

地下空間を有効利用するために、総合的な観点(都市計画、法制、経済性、心理、生理、防災、環境、建設、維持管理、歴史、文学等)から、価値を再認識することが本セッションの目的である。ここでは都市部に限らず、幅広く地下空間利用の実例について注目し、多角的な利用を推進するための新しい視点・技術の提案、最新の知見を駆使した計画・実例を紹介する。

CS5 気候変動による影響への適応

気候変動の影響は近年の豪雨災害の増加により顕著化しており改めて防災対策を講じる必要があることは疑う余地がないばかりでなく、利水や環境といった側面でも気候変動への適応が急務となっている。本セッションは、気候変動や地球規模での環境変動をキーワードに、水圏における治水、利水、環境といった様々な視点から取り組む適応研究について幅広く議論し、より横断的な研究の推進、連携の活性化、新たなテーマの発掘を目指す。

CS6 新設および大規模改修時における橋梁計画

橋梁の新設や大規模な改修を計画するに当たっては、本体の構造設計や材料選択のみならず、維持管理や社会的コストを含めた経済性、自然環境や景観への配慮、防災計画における位置づけ、契約方式や計画に対する合意形成等々、分野を超えた様々な要素を勘案した総合的な技術的検討が重要である。「橋梁」を切り口に幅広い議論の場としたい。

CS7 土木分野におけるセンサ技術の利用と可能性

土木分野におけるセンサ技術の利用は、施工と維持管理を中心に防災や環境などの分野でも進展している。特に我が国における社会資本の老朽化対策に資する新技術の活用等として「モニタリングシステムの開発」が脚光を浴びている。加えて、衛星測位、画像処理、光ファイバ、MEMS、RFID など各種のセンサの応用が図られ、通信技術と組み合わせたセンサネットワークも展開されつつある。本セッションでは、今後ますます活発化すると予想されるセンサ技術の利用に関して、種々の試みや事例に関する論文を幅広く募集する。

CS8 計算力学

次の各分野における計算技術の発展・展開に関する研究を募集する。(a)FDM, FEM, BEM, メッシュレス法等の解析手法。(b)高速解法, アルゴリズム, 適応型計算法, モデル生成, 可視化手法, 並列計算, マルチスケール法等の計算力学手法。(c)破壊問題, 大変形問題, 材料非線形問題, 接触問題, 動的問題, 波動問題, 固体流体連成問題, 乱流, 移動境界問題, 地球環境・気象, 災害・防災のシミュレーション, 騒音問題, 逆問題, 最適化・制御

問題等への応用

CS9 ダイバーシティ&インクルージョン

土木界における人材の多様性推進については、産官による行動計画や土木学会による行動宣言が発表され、今後、様々な業種での取り組みが急速に進むものと期待される。発生する課題や知見を共有することは、継続的な実行には不可欠である。そこで本セッションでは、土木界におけるダイバーシティ&インクルージョンに関する事例報告、分析、先行研究の紹介等の投稿を募集し、情報の共有と知見の蓄積を行うこととしたい。

CS10 土木工学における諸資料および映像記録の収集、保存と利活用

土木工学に関する資料の収集・保存、利活用に向け、データベースの充実、図面資料の発掘とそのデジタル化、さらには、映像資料の発掘などが進んでいる。特に、ここ最近ではさまざまなアーカイブスの構築などが進められている。本セッションは、各種資料の収集、保存や利活用に関する研究成果を報告しあうことで、資料の収集や保存、利活用の今後の実践や必要な情報環境の整備などについて議論する場としたい。

CS11 道路橋床版・防水層・舗装の維持管理と長寿命化

道路橋床版は輪荷重の繰返しによる疲労損傷が大きな問題であったが、設計上の対応や防水層の敷設といった設計仕様の充実で、新設の床版では十分な耐久性を確保できるようになってきた。

その一方で、既設床版では塩害や他のコンクリートの材料劣化、鉄筋の腐食により床版耐力が確保できない事例も目立っている。これら損傷や劣化を防ぐための防水技術や、舗装の敷設の影響や関連技術など、他分野からの視点から踏まえて維持管理や長寿命化について検討したい。

CS12 震災から5年～被災地の現況と未来の“土木史形成”にむけて

被災地の復興が進む中で、土木史に関する社会的課題が生じている。本討論会では、震災遺構の扱い、被災地ツーリズムの現状と意義、さらには大きな変化を余儀なくされた野蒜築港など土木遺産に対する地域的アプローチの現状を報告・議論し、未来の新たな「土木史」を構築するための指針を得ることを目的としたい。震災から5年を経て、当地にてこのテーマを扱うことの意義は大きく、様々な分野からの専門家の参加を歓迎したい。

CS13 放射性廃棄物の処分技術

放射性廃棄物に関わる政策方針については、国等で議論がなされているが、低レベルおよび高レベルなどの放射性廃棄物や、事故に起因する放射性汚染廃棄物の処分は、今後も重要な課題として取り組んでいく必要がある。これらの施設の設計・施工は土木技術に基づく事業であり、その実現に向けた課題は、地盤・地下水の特性評価、コンクリートの特性評価、施設の設計や安全評価など多岐にわたるため、各部門の研究者が議論する場を提供する。

●部門セッション名

※各部門内のセッション名を整理し区分しました。その結果、セッション名が大きく変更となっている場合がありますのでご注意ください。なお、従来のI部門の合成構造、V部門の合成・複合構造は共通セッションの複合構造物にご投稿ください。

※平成24年度よりIV部門の「鉄道工学」を廃止し、IV部門の「交通工学」に「鉄道計画」を新設致しました。これに伴い、VI部門の「施工(技術)」,「維持・管理」に各々「鉄道」と「軌道保守」を新設致しました。これまでのIV部門「鉄道工学」に投稿されていた方は、ご留意の上、論文の内容に応じた部門及びセッションに投稿されますよう、お願い致します。

※研究関連セッションの他に、「CS1 土木教育一般」への投稿もお考えの場合は、事務局全国大会係へお問い合わせください。

第I部門

[応用力学] 固体力学, 計算力学(構造), 計算力学(非構造), 計算力学(アルゴリズム), 弾塑性, 有限変位, 振動, 波動, 衝撃(解析), 衝撃(実験), 数値解析

[構造工学] 骨組・骨組部材, 薄肉構造, 板, シェル, 橋梁床版, エキスパートシステム, 特殊構造, 最適設計, 安全性・信頼性, 維持管理, 構造計画, 構造景観, 構造同定, 診断・補修・補強, 宇宙構造物

[鋼構造] 座屈・耐力(桁), 座屈・耐力(柱), 座屈・耐力(板), 座屈・耐力(その他), 非破壊評価, 破壊力学, 疲労, 溶接, 接合, 継手, 橋梁一般(設計), 橋梁一般(施工), 橋梁一般(測定), 橋梁振動(理論), 橋梁振動(実験・測定)

[地震工学/工学地震学] 震害, 断層変位の対策・計画, 地震危険度・地震動(震源特性), 強震動予測, 地盤震動(観測), 地盤震動(解析), 地震防災, リアルタイム地震工学, 設計地震動, 地盤液状化

[耐震構造] ダンパー, 振動制御(アクティブ・セミアクティブ), 振動制御(事例報告), 免震構造・デバイス, 落橋防止構造, 地震応答解析, 橋梁の耐震, 基礎の耐震, ダム・タンクの耐震, トンネルの耐震, 都市施設の耐震, 地中構造物の耐震, 耐震設計法, 耐震補強, 耐力・変形性能, 耐震実験, 盛土の耐震

[風工学] 耐風・風工学(数値流体), 耐風・風工学(基礎), 耐風・風工学(応答予測・制御), 耐風・風工学(事例報告・観測)

第II部門

[水理学・環境水理等] 流体力学, 数値流体力学, 乱流, 管路の水

理, 水理構造物, 流体力, 密度流, 氾濫流の水理, 河口の水理・水質, 水圏の生態系(魚類・底棲生物・植生等), 水圏環境の保全・再生・創造, 物質輸送・循環(栄養塩類等), 構造物周辺の流れ・洗掘, 植生水理, 水理計測・観測手法, 河川環境構造物(魚道・人工生息場等), 水系土砂管理

[水文・水資源] 地球環境問題, 自然共生, 水災害リスクマネジメント・危機管理, 都市の水・熱環境, 地球規模の水・エネルギー循環, 気候変動・社会変動と水循環, 国際的プロジェクト・国際協力, 流況制御, 流域管理・計画, 都市雨水流出管理・計画, 水災害・防災, 都市の水災害, 国際的水問題, 地下水理・地下水文, 水工情報システム, 水文・水循環計測, 水文統計, 流出・洪水, 水資源計画・管理, 大気水象(降水・雲), 大気陸面相互作用

[河川・湖沼・ダム] 河川の水環境(物理学的動態解析), 流砂(土石流, 泥流, 掃流, 砂浮, 遊砂, ウォッシュロード, 底泥), 河道の水理, 土砂の生産・流出, 流路・河床形態, 流路・河床変動, 河川地形, 河川工法, 河川計画・管理, 閉鎖水域環境(湖沼・貯水池における物理学的動態解析), 閉鎖水域の水理(湖沼・貯水池), ダム堆砂・排砂, 開水路・複合水路(複断面・わんど)の水理, 拡散・分散

[海洋・港湾・海岸工学] 沿岸域の環境・生態系, 沿岸域のアメニティー・人間工学, 波動, 砕波・遡上, 風波・不規則波, 高潮・津波・長周期波, 海底・海水面境界過程, 沿岸域の流れ, 波力・流体力・氷力・地震力, 波・流れ制御・利用構造物, 海岸・海洋・港湾・水産施設, 漂砂機構, 飛砂・飛沫, 海岸地形, 漂砂制御, 局所洗掘, 底泥の挙動, 海岸地盤, 海岸災害・防災, 海岸・海洋の資源・利用, 港湾・海岸計画

第III部門

[地盤材料・一般] 土の物理化学的性質, 砂の変形強度, 粘土の変形強度, 土の動的性質, 土地質, 岩の工学的性質, 試験法・調査法, 土質安定処理・地盤改良, 流動化処理土, 特殊土, 不飽和土

[地盤の挙動] 地盤の動的挙動, 圧縮・圧密, 地盤の応力と変形, 透水・浸透, 現場計測, 凍結・凍土, 数値解析, 地盤の性能評価

[地盤と構造物] 土圧, 地圧, 支持力, 杭, 基礎工, トンネル, シールドトンネル, 地下空洞と地下構造物, 地下利用, 掘削, 土留め, 補強土, 締固め, 路床・路盤, フィルダム, 施工機械, 維持・補修

[地盤防災] 斜面, 安全性・信頼性, 火山工学, 都市地盤情報, リスクマネージメント, 洗掘・侵食

[地盤環境] 廃棄物, 土壌地下水汚染, リサイクル

第IV部門

[土木計画] 計画理論, 信頼性・リスク分析, 社会・経済分析評価, プロジェクト評価, 計画情報・情報処理, 施工管理計画, 港湾計画, 空港計画, 物流

[地域都市計画] 都市・地域計画, 都市整備・都市開発, 土地利用計画, 観光・余暇計画, パブリックインボルブメント・住民参加

[国土計画] 資源・エネルギー, 防災計画, 災害分析, 環境計画

[交通計画] 交通調査方法論, 交通発生, 交通分布, 交通手段分担, 交通配分, 交通ネットワーク, 交通アセスメント, 交通需要マネジメント, 交通情報提供, 交通サービス評価, 地区交通, 駐車場・駅前広場, 歩行者・自転車交通, 高齢者・身障者交通, タクシー・STサービスの交通政策・交通システム, 公共交通

[交通工学] 道路工学, 交通流, 交通制御, 交通公害, 交通事故, 鉄道計画

[景観・デザイン] 景観デザイン, 景観調査・分析, 景観認識, 景観評価

[土木史] 土木史

[測量] 測量・リモートセンシング

第V部門

[土木材料] リサイクル, 新材料・新工法(材料), 骨材, 混和剤, 混和材, フレッシュコンクリート, 高流動コンクリート, 水中コンクリート, 軽量コンクリート(材料), 吹付けコンクリート, 短繊維補強コンクリート(材料), 連続繊維補強コンクリート(材料), 海洋コンクリート, 特殊コンクリート, 物性, 評価・試験方法, セメント化学, 引張・圧縮, クリープ・収縮, ひび割れ, 温度応力, 製造・施工, 品質管理・検査, ポンプ圧送, 締固め, 維持管理, 劣化予測, 耐久性一般, 耐火性, 複合劣化, 鋼材腐食, 防食, 塩害, 凍害, アルカリシリカ反応, 非破壊試験法, 補修・補強(材料), 耐久性設計, 副産物利用・再生材料, 再生コンクリート, エコ・緑化コンクリート, リニューアル, ライフサイクル(LCC・LCA), サステナビリティ

[舗装工学] 路面評価(舗装), 構造評価(舗装), 構造設計(舗装), 維持・修繕(舗装), リサイクル(舗装), 環境保全(舗装), 舗装材料, 路床・路盤, アスファルト系舗装, セメント系舗装, 特殊舗装, 舗装一般

[コンクリート工学/構造] 新材料・新工法(構造), 軽量コンクリート(構造), 短繊維補強コンクリート(構造), 連続繊維補強コンクリート(構造), プレストレストコンクリート, プレキャストコンクリート, コンクリート製品, 補修・補強(構造), 破壊力学, 曲げ, せん断・ねじり, 耐震, 振動, 耐震補強, 耐震診断, 付着・定着・継手, 疲労・衝撃, 数値解析, 構造設計, 構造物調査・診断

[木材工学] 木材・木質材料, 木材利用, 木材(耐久性)

第VI部門

[建設事業計画] 事業計画, 計画技術, 知的情報処理

[設計] 設計概念, 景観設計, 設計技術

[調達/Procurement] 入札・契約, 積算・見積, 資金調達, 技術力評価

[施工(技術)] 施工計画, 施工技術, CIM, 建設ロボット, 自動化システム, 情報化施工, 測量・計測, GPS, GIS, リモートセンシング, 技術開発, 新材料・新素材, 海外工事, 建設環境(リサイクル・土壌浄化・水質浄化・廃棄物), 河川構造物, 港湾・海洋構造物,

空港、橋梁、開削トンネル、シールドトンネル、山岳トンネル、地下構造物、ダム、各種基礎、特殊構造物、土留め、地盤改良、耐震・免震、鉄道

[施工(管理)] コスト管理, 品質管理, 工程管理, 安全管理, 品質保証

[維持・管理] アセットマネジメント, 検査技術・診断, リニューアル(維持管理・補修・補強・更新), 軌道保守

[建設マネジメント] 建設マネジメント, プロジェクトマネジメント(PM/CM), 公共マネジメント, リスクマネジメント, 合意形成, 公共政策, PFI・PPP, コスト縮減, 組織・人材育成, 建設技術評価, 建設産業・建設市場

第VII部門

[環境計画] 環境影響評価, 環境リスク評価・管理, 地域環境計画・管理, 森林・植生, 環境創造・ビオトープ, 水資源・水需給, 国土・都市更新

[環境システム] 環境意識・環境教育, 環境倫理, 環境経済, 循環型社会, ライフサイクルアセスメント(LCA), 都市環境, 熱環境・エネルギー

[用排水システム] 生態工学, 浄水処理, 下水処理, 物理化学処理, 嫌気性処理, 膜分離・処理, 生物膜処理, 栄養塩除去, 上下水道管理, 都市雨水流出管理

[廃棄物] 汚泥処理技術, 廃棄物収集・処理・処分計画, 埋立処分場管理, 循環資源・リサイクル

[土壌・水環境(魚類を除く生物学的・化学的な動態解析と環境改善技術)] 水質モニタリング・解析, 生態系モニタリング・解析,

水質浄化技術, 自然浄化機能, 水環境モデリング, 水辺環境計画・管理, 流域環境計画・管理, 底泥, 遺伝子工学, 毒性評価, 有害物質環境汚染, 内分泌攪乱化学物質, 土壌・地下水汚染(分析修復技術), バイオレメディエーション

[大気環境・騒音振動] 大気モニタリング・解析, 大気浄化技術, 大気環境モデリング, 悪臭, 騒音, 振動, 酸性雨, 温暖化対策

[原子力土木] 活断層, 地震・津波, 地盤・斜面, 断層変位, 地中構造物耐震, 耐久性・補修・補強, リスクコミュニケーション, 外的事象PRA(確率論的リスク評価), 地域安全, 危機耐性

共通セッション

CS 1 土木教育一般

CS 2 International Session (国際セッション)

CS 3 複合構造物

CS 4 地下空間の多角的利用

CS 5 気候変動による影響への適応

CS 6 新設および大規模改修時における橋梁計画

CS 7 土木分野におけるセンサ技術の利用と可能性

CS 8 計算力学

CS 9 ダイバーシティ&インクルージョン

CS 10 土木工学における諸資料および映像記録の収集, 保存と利活用

CS 11 道路橋床版・防水層・舗装の維持管理と長寿命化

CS 12 震災から5年～被災地の現況と未来の“土木史形成”にむけて

CS 13 放射性廃棄物の処分技術

●講演申込要領 (電子申込み)

■最新情報・変更事項

この要領が発行されて以降の最新情報や変更事項については、以下の土木学会全国大会委員会ホームページ上に掲載します。実際に申し込む前に早めに確認しておいてください。
<http://committees.jsce.or.jp/zenkoku/>

■投稿締め切り3日前までの投稿をお勧めします。

締切間際には、かなりの件数の申込みが殺到するものと予想されます。その場合、原稿ファイルを送るのに1時間以上を要したり、ホームページへのアクセス自体が困難になるなどの不都合が生じると考えられます。システムを快適に使用するには、なるべく早めの申込みをお願いします。

■申込み締切後に確認を行ってください。

申込み締切後に、確認期間を設けます。申込み内容を会員自身で必ずチェックしてください。確認期間は4月5日(火)13:00

～4月8日(金)17:00です。

■トラブル発生時の措置

万が一、トラブルが生じた場合の措置については、土木学会ホームページ上に掲載します。その指示にしたがって対応してください。

■大まかな手順

1. ホームページ上での申込みと投稿

申し込み期間中に、土木学会ホームページ上で申込み書に記入事項を入力し、原稿ファイルを送信する。

2. 申込み・投稿内容の確認

申込み期間終了後の確認期間中に、申込み内容を自分でチェックする。

3. 登録参加料の支払い

所定の期間内(郵便振替は4月8日(金)、コンビニ支払いは4月

会開催地一覧

水シンポジウム

回	年度	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部	担当部会
1	1996							鳥取		
2	1997					兵庫				
3	1998		福島							
4	1999			東京						
5	2000								熊本	
6	2001				富山					
7	2002	札幌								
8	2003						愛媛			
9	2004							広島		
10	2005					大阪				
11	2006		宮城							
12	2007				愛知					
13	2008			千葉						
14	2009				新潟					
15	2010								福岡	河川
16	2011					京都				環境水理
17	2012				岐阜					基礎水理
18	2013						高知			水文
19	2014								長崎	河川
20	2015				福井					環境水理
21	2016							山口		基礎水理
22	2017								沖縄	水文
										河川

未 開 催 県	岩手県	茨城県	三重県	滋賀県	徳島県	島根県	佐賀県
	山形県	栃木県	静岡県	奈良県	香川県	岡山県	大分県
	秋田県	群馬県	長野県	和歌山県			宮崎県
	青森県	埼玉県	石川県				鹿児島県
		神奈川県	山梨県				

平成 28 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画

1) 委員会名：水工学委員会

連絡者氏名：中山恵介

連絡先住所：〒657-8501

兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 1W-209

電話番号：078-803-6056

E-mail アドレス：nakayama@phoenix.kobe-u.ac.jp

2) 研究討論会のタイトル

気候変動への適応研究推進に向けて！

3) 座長氏名：中北英一

所属：京都大学防災研究所

4) 話題提供者氏名・所属：

神田学・東京工業大学

立川康人・京都大学

森信人・京都大学

宮本仁志・芝浦工業大学

矢野真一郎・九州大学

国土技術政策総合研究所から 1 名

5) 定員：200 名

主題（300 字以内）

地球温暖化時の降水・洪水への適応策の提案だけでなく、水循環や水環境を含めた気候変動の影響評価、適応策の提案が求められている。しかし、影響評価研究に比較して、適応策の提案研究が十分に進み活用されているとは言いがたい。そのため、気候変動の様々な分野への影響が明らかとなっていることを踏まえ、適応に向けたより一層の研究推進および成果の発信が必要であると考え。本討論会においては、トップダウンとしての基本計画的な位置づけでの実務機関と機構研究コミュニティの連携を保ち、かつボトムアップとして、水工学として適応のために議論・研究しておくべき「外力や環境の変化に伴う技術、計画論とは何なのか？」を、水工学の観点からするものである。

(備考)

水工学委員会胃から以下のように順位を付けて、2 件、申し込みます。

1 位：気候変動への適応研究推進に向けて！（本申請）

2 位：水工情報システムの発展

話題提供者の都合で、本企画を学会初日（9 月 7）としていただきますとありがたく存じます。よろしくお願ひします。また、これらの企画がともに採択され、両方にて話題提供する方がいらっしゃるため、別時間帯に設定していただきますとありがたく存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

全国大会 研究討論会 企画（水工学委員会）

- 1) 委員会名：水工学委員会
連絡者氏名：立川康人
連絡先：京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻
〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 C1
Tel: 075-383-3362
Email: tachikawa@hywr.kuciv.kyoto-u.ac.jp
- 2) 研究討論会のタイトル：
水工情報システムの発展
- 3) 座長氏名：山田 正（中央大学理工学部土木工学科）
- 4) 話題提供者名：
立川 康人（京都大学）、
大平 一典（中央大学）、
菊森 佳幹（国土技術政策総合研究所）他
- 5) 定員：約 200 名

主題：

激甚化している水災害に備えるため、降水現象や洪水流下等の水文・水理現象を確実に捉え、水工情報として防災・減災の活動に使えるよう高度化・システム化することが求められている。このことから、水文・水理現象を観測する技術とシミュレーションする解析技術（データ補完・データ同化等）、観測・解析した結果を可視化する技術などを高度に組み合わせ、有効に活用することの重要性が増している。しかしながら、個々の技術は独自の研究開発分野ごとに発展してきた経緯があり、互いに連携する機会が少なかった。そこで本研究討論会では、これらの個々の観測技術、解析技術、可視化技術等の水工情報システム全体を形づくる各分野の研究開発者が連携し、互いに発展するための方策について議論する。

（備考）

今年度から第2部門の一般セッションに「水工情報システム」を新設しました。この一般セッションと今回、提案します上記討論会は密接に関連します。そこで、もし、この討論会が採択されましたら、可能であれば、この一般セッションと同一日にしていただけますとありがたく存じます。よろしくお願いいたします。

土木学会論文集B分冊合同編集小委員会の 次期委員推薦について

1. 交代される委員の方々

- 基礎水理部会：杉原裕司先生（九州大学）
- 環境水理部会：重枝未玲先生（九州工業大学）
- 水文部会：横尾善之先生（福島大学）

2. 新委員の方々

- 基礎水理部会：山上路生先生（京都大学）
- 環境水理部会：田代喬先生（名古屋大学）
- 水文部会：石塚正秀先生（香川大学）

国土交通省のレーダ雨量計設置50周年事業について

1. 2016年度は国土交通省のレーダ雨量計設置50周年にあたる
 - 国土交通省の河川情報企画室が50周年のイベントを考えている
 - 学会と連携してはどうか？
 - 平成28年度土木学会年次講演会 研究討論会での連携
 - 水工学講演会との連携

気候変動による影響への適応小委員会について

1. 「気候変動による影響への適応に向けた研究・活動の推進」

- 地球温暖化時の降水・洪水への適応策の提案だけでなく、水循環や水環境を含めた気候変動の影響評価、対応策の提案が求められている。水工学委員会としては、これまでアゲールシンポジウム等を利用し、気候変動に対する問題に関する研究成果の発信や適応策の提案を行ってきた。気候変動の様々な分野への影響が明らかとなっていることを踏まえると、適応に向けたより一層の研究成果の発信が必要であると考え。そこで、水工学委員会に存在する4つの部会「基礎水理部会」「環境水理部会」「水文部会」「河川部会」が一丸となり、気候変動への適応に向けた研究活動を推進することを目的とする。
- 適応という広い分野として、地球環境委員会、海岸工学委員会と連携し横断的に進めて行く。

平成27年度 第1回 気候変動による影響への適応に向けた 研究・活動の推進WG

- 日 時：平成27年12月2日(水)17:20～23:00
- 場 所：京都大学防災研究所5階セミナー室 E-517号室(〒611-0011 宇治市五ヶ庄)
- 協議会 & 懇親会20:00～23:00
- 出席者：中北英一、戸田祐嗣、矢野真一郎、田村浩敏、森信人、宮本仁志、矢島啓、赤松良久、椿涼太、丸谷靖幸、中山恵介(順不同、敬称略)



平成27年度 第2回 気候変動による影響への適応に向けた 研究・活動の推進WG

- 日 時：平成28年3月13日(日)18:00～20:00
- 場 所：仙台市内某所
- 出席者：中北英一、戸田祐嗣、矢野真一郎、田村浩敏、宮本仁志、矢島啓、赤松良久、小林健一郎、佐山敬洋、椿涼太、丸谷靖幸、田中智大、中山恵介(順不同、敬称略)

《報告事項》

- 平成28年度全国大会 共通セッションについて

《協議事項》

- 小委員会名について
- 「土木学会公益増進資金」助成について
- 平成28年度全国大会 研究討論会について

気候変動による影響への適応小委員会について

1. グローカル気候変動適応研究小委員会

- 「Subcommittee on glocalizational adaptation to climate change」
- ボトムアップとトップダウンの両方から(あるいはその中間のような位置づけ)で適応策を検討していくというニュアンスと社会科学的な研究まで包括するというニュアンスを出すために「グローカル(グローカリゼーション)」という言葉を選んだ。これは「地球規模で考えながら、自分の地域で活動する」という意味になる。この言葉は社会科学の分野でよく使われるので、社会科学的な研究を包括するという意図も伝わると考える。

1. 投稿数・採択数

投稿数：317編
(国際S：39編)

採択数：231編

「通常号」からの
講演：3編

投稿数・採択数・採択率				
巻	年	投稿数	採択数	採択率
41	1997	225	189	84.0
42	1998	216	197	91.2
43	1999	224	189	84.4
44	2000	234	211	90.2
45	2001	252	213	84.5
46	2002	251	207	82.5
47	2003	295	222	75.3
48	2004	347	273	78.7
49	2005	349	268	76.8
50	2006	346	254	73.4
51	2007	321	247	76.9
52	2008	309	237	76.7
53	2009	343	255	74.3
54	2010	363	276	76.0
55	2011	379	283	74.7
56	2012	403	301	74.7
57	2013	386	303	78.5
58	2014	348	274	78.7
59	2015	317	250	78.9
60	2016	317	231	72.9

分野	査読キーワード	キーワード別		分野別	
		投稿	採択	投稿	採択
水文	水文気象プロセス	13	12	86	69
	生態水文	3	3		
	気候変動とリスク評価	11	11		
	降水	12	10		
	流出解析	16	11		
	水文統計／水文情報	4	3		
	雪氷水文	2	2		
	地下水・浸透	7	5		
	流域管理・洪水リスク管理	18	12		
流砂	流域土砂動態	6	4	34	28
	流砂	13	9		
	河床形態・流路形態	8	8		
	河床変動	7	7		
河川水理	水災害・防災・減災	38	24	108	72
	水害・氾濫の水理	21	13		
	管路・局所流	1	1		
	開水路の水理	20	16		
	密度流・噴流・拡散	1	0		
	水理現象の数値解析	11	7		
	流体力・流体振動・波動	3	1		
	観測技術	13	10		
河川環境	河道・流域の環境・環境評価	9	8	50	33
	流域の流出負荷・河川の水質	6	1		
	水生生物（藻類，底生動物，魚類など）・魚道	22	13		
	河道の植生	9	8		
	河道の物理環境	4	3		
湖沼・ダム	湖沼・貯水池の水理と環境	19	12	19	12
沿岸	沿岸・河口域の水理と環境	14	11	20	17
	津波	6	6		

2. 『講演会としての活性化』を目指した試み

・国際Sと通常Sの融合

国際S投稿論文は関連分野の通常Sに配置.

英文論文には英語での司会・討議を依頼.

日本語論文もスライドは出来るだけ英語化を依頼.

・司会者2名(シニア・中堅+若手)を試行

若手PD, 助教の方などの座長経験, 若手PRの場として

・各セッションに出来るだけ総合討議の時間を配置.

・アウトスタンディング・ディスカッション賞の試行

3. 要検討事項・審議事項

(赤字は今日の委員会で決めたいこと)

①査読分野の見直し，編集小委員会委員の追加

「流域管理・洪水リスク管理(18)」，

「水災害・防災・減災(38)」

「水害・氾濫の水理(21)」

に関する査読分野を新設し，その分野への編集幹事，編集委員を再配置・追加.

現在，大学・高専教員以外の編集委員は，原則として「副査のみ」でお願いしているが，この分野については，研究機関に所属している方には主査をお願いしたい.

3. 要検討事項・審議事項(つづき)

②若手司会者の選び方

当初お願いした司会者の方には、時間が無い中、若手司会者の選出にご対応いただいた。

若手司会者の要件は、原則、学位をお持ちの方とした。但し、そうでない場合も、個別に相談の上、対応(お認め)した。

- 予め司会候補者リストを作成。

- 12月編集幹事会で

 - 案1 : 編集幹事で2名とも決める。

 - 案2 : 1名のみ決め、司会候補者何名かを推薦する。

3. 要検討事項・審議事項(つづき)

③「国際セッション優秀論文賞」の名称
提案 「水工学優秀英文論文賞」

④BIBファイル作成の業者委託(全論文で10万円程度)
著者作成のBIBファイルに含まれるミス

J-StageにUPされるまでの期間も短縮可能(但し, 水工学
論文集CD-ROMの販売とも関連するので要検討).

3. 要検討事項・審議事項(つづき)

⑤水工学論文賞・奨励賞の内規の修正

実情に沿うように修正。昨年10月の幹事会で承認済み。

【内規中の候補論文の推薦箇所】

(現行)ただし、上位数編について有意な差が認められない場合には、そのすべての論文を対象とし、論文賞選考小委員全員*が査読審査し、後日投票(メール投票)によって決定する。

(*:論文賞選考小委員会のメンバーは論文集編集小委員会)

(修正案)ただし、上位数編について有意な差が認められない場合には、そのすべての論文を対象とし、水工学委員長が指名する数名の委員が査読審査し決定する。

本日付(2016.3.14)で変更。

3. 要検討事項・審議事項

(赤字は今日の委員会で決めたいこと)

①査読分野の見直し，編集小委員会委員の追加

②若手司会者の選び方

③「国際セッション優秀論文賞」の名称
⇒ 「水工学優秀英文論文賞」

④BIBファイル作成の業者委託

⑤水工学論文賞・奨励賞の内規の修正